

オペラ 「マダマ バタフライ」 原作台本の日本誤認歌詞／ト書き・改訂
イタリア、プッチーニフェスティヴァル 2011年8月6日(土)、11日(木)、18日
(木)、3回上演

上演資金にご協力をお願い 募金・趣意書

先進諸国の文化のバロメーターはオペラである。誠に残念ながら未だ世界に誇る日本のオペラが出ていないので、長崎を舞台とした名作「マダマ バタフライ／蝶々夫人」ほど、黒船来航で門戸を開いて以来わが国を世界に紹介しつづけてきた舞台芸術は他にない。

ところが、遠い極東の国のことを実際に知るのが不可能だった、百年以上前に書かれたこの作品の、原作者たちが追い求めた日本の真の姿には、悲しいことに、その宗教、習慣、固有名詞に我々日本人なら誰でもが首をかしげ、嫌悪をさえ覚える間違いが存在し、それが何とこの日本ですら、今でも直されずに上演され続けている。

そして殆どの日本人は、憂うべきことにはオペラに携わる人々を含めて、そのことに気がついていなかった。

今から半世紀も前。ローマに留学したての僕はこのオペラの楽譜に「カミサルンダシコ」と、僧侶のぼんぞーが歌う歌詩を見て、イタリア人指揮者にその意味を尋ねた。主人公・蝶々さんの叔父ぼんぞーは、姪が自分に無断で、夫となるアメリカ海軍士官の宗教・キリスト教に改宗したので、こう面罵し怒鳴りこんでくるのである。「日本人の君が解らないのなら俺にわかるわけではないよ」。という返事に愕然とした。これは日本人が正さねばならない！あとで「神・猿田彦」のことに違いないと知り、僕はその決意を新たにした。神仏混同、しかも猿田彦は道祖神で、姪を怒鳴る言葉ではない！— こういう日本についての間違っただけの歌詩とト書きが十数か所もこのオペラにはあるのだ。

「マダマ バタフライ」の舞台、長崎港の向こうに富士山が見える。蝶々さんは下駄を履いたまま家に入る。その家がゴリラのように樹木の枝の中にある。こういう屈辱的な誤認は、日常茶飯事で、演出家の無知からのことだから、日本人が演出すればすぐに直るのだ。だが歌詞は台本作家の名で楽譜に印刷されている。七十年の著作権保護期間は過ぎたとはいえ、これを正すにはお墨付きが要る。

僕が2003/4年にこれら誤認を是正し、日伊両国語で、東京で上演した公演は批評家には無視されたが、幸運にも両年続けて観にきたイタリアの文化担当官が、本国にそのライブDVDを送付するように僕に強く助言した。そのDVDを見たプッチーニ・フェスティヴァル財団総監督の提案を受け、僕の演出で、同財団とNPOみんなのオペラの、日伊共催、全部原イタリア語での世界初演がイタリア、トッレ デル ラーゴの新野外湖畔歌劇場(3200席)で2011年8月に6日(土)、11日(木)、18日(木)と3回おこなわれる契約を交わした。お墨付を得たのだ。

だが当NPOは6千万円の資金を負担せねばならない。衣裳担当の千地泰弘さんの献身的なご協力を得ても、和風家屋、小道具、そのイタリアへの運搬費用、和もの担当の裏方たち、2010年5月末のオーディションで選出する蝶々さんなど日本人役出演者たち、その報酬、渡航、滞在費、下見、などでどうしてもそれだけかかる。

間違いは何であろうと改めねばならない。ましてや常に世界中で観客の目に晒されている「マダム バタフライ」の訂正は、日本の名誉として尚更のことである。

我々は「正しいマダム バタフライ」と題したシンポジウムを国際交流基金の援助を受け、長崎と東京において、ドナルド・キーン、立花隆、フランコ・モレッティ(プッチーニ・フェスティヴァル財団総監督)、小倉和夫(国際交流基金・理事長)の各氏をパネリストに迎え、僕の司会／誤認箇所説明、で、2009年10月末におこない、日本国内での啓蒙に務めた。2010年5月末には国際交流基金、イタリア文化会館の協力を得て、4日間に亘る国際オーデションをおこない、世界のプッチーニオペラの中心、プッチーニ・フェスティヴァルでの上演に最も相応しい日本人役出演者を選出した。

資金を集める慣れない努力を続けているとき、マスコミの報道を見た心ある方々から、自発的に浄財が集まりはじめた。この厳しい経済状態の中で、まさに干天の慈雨である！

我々日本人は、自国についての過ちは毅然と正す国民である、ということの世界に示し、そして、これまで輸入一方であった日本のオペラ文化を、世界に輸出する嚆矢とする為に、この又とない機会を成功に導けるよう、伏して皆様のご援助をお願いする次第である。

オペラ歌手・演出家
岡村喬生

記:ご芳志は下記口座に、よろしければご芳名、ご住所、お電話番号を明記の上お振込みくださると幸いです。上記の目的以外には決して使用いたしません。

郵便口座番号:00250-3-19416 口座名:NPO みんなのオペラ

2010年7月末日

NPOみんなのオペラ

理事長	吉田栄夫 (元・南極越冬隊隊長)
副理事長	鷺尾悦也 (元・連合会長)
特別顧問	愛知和男 (元・防衛庁／環境庁長官)
副理事長・芸術総監督	岡村喬生 (オペラ歌手・演出家)

他

理事一同